

飛鳥資料館のみどころ (15)

前庭

このところ、展覧会のお知らせが続いていましたので、久方ぶりに当館のみどころを紹介いたします。

正面ゲートを入ると、資料館の建物の手前に緩やかに傾斜する芝生張りの前庭が広がっています。その真ん中にそびえ立ち、ひときわ目を引くのは、復原された須弥山石です。当館内に展示しています石神遺跡から出土した実物は3石です。それをよくみると、下段の石と中段の石の表面に彫刻された模様が合いません。本来は、両者の間に、もう1石あったのです。そこで、前庭のものは、4石で推定復原し、実際に水を噴出させています。

これとは別に、飛鳥の謎の石造物でもある岡の酒船石、車石、出水の酒船石が、古代の流水施設をイメージして設置されています。このうち、出水の酒船石は、発掘調査により、飛鳥京苑池の流水施設であることがわかりました。また、車石の

一部は、明日香村内から移設された実物です。

さらに、これらを囲むように、周囲にはイチョウ、カキ、サクラ、スモモ、カエデ、コナラ、ケヤキなどが植えられ、四季のうつりかわりを楽しませてくれます。なお、当館の元館長である坪井清足氏によれば、前庭のケヤキ（榎）は、飛鳥寺の西にあってさまざまなできごとの舞台になった「榎の木広場」をイメージして植樹した、とのこと。（飛鳥資料館 加藤 真二）



青空コンサートにも利用しています

■ 記 録

埋蔵文化財担当者研修

- 鉄製武器類調査課程
平成20年10月6日～10日 13名
- 遺跡測量課程
平成20年10月20日～30日 5名
- 遺跡地図情報課程
平成20年11月18日～21日 15名
- 自然科学的年代決定法課程
平成20年12月1日～18日 6名

現地説明会

- 飛鳥藤原第153次（藤原宮朝堂院朝庭）
平成20年9月27日（土） 953名
- 平城第432次（第一次大極殿院西廻廊）
平成20年9月28日（日） 728名

公開講演会（第103回）

- 平成20年10月25日（土）
於：平城宮跡資料館講堂
「平城宮とその周辺の先史時代」
森川 実 都城発掘調査部研究員
「洋風庭園と日本近代」
栗野 隆 文化遺産部研究員

平城宮跡資料館展示

特別企画展「地下の正倉院展－長屋王家木簡の世界－」

平成20年10月21日（火）～11月30日（日）

○ギャラリートーク

平成20年10月26日（日） 山本 崇
平成20年11月9日（日） 浅野 啓介
平成20年11月23日（日） 渡辺 晃宏

飛鳥資料館秋期特別展

展示「まほろしの唐代精華 黄冶唐三彩窯の考古新発見」

平成20年10月17日（金）～12月7日（日）

- シンポジウム「河南黄冶唐三彩窯の考古新発見」
平成20年10月18日（土）

於：平城宮跡資料館

孫 新民 河南省文物考古研究所長
郭 木森 河南省文物考古研究所館員
劉 蘭華 中国文化遺産研究院研究員
巽 淳一郎 京都橘大学教授

最近の本―所員の著作から

○山崎信二『近世瓦の研究』同成社、2008年8月

編集「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp/>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2008年12月